

# 支援学級在籍生徒に対する音楽の学習支援づくり

学籍番号 199205

氏名 川尻 歩野佳

主指導教員 梅川 康治

## 1. 研究の背景と目的

現状の学校現場では、いじめや不登校児童生徒数が増えてきており、教育課題として挙げられている。(文部科学省・2020)。また、特別な支援を要する児童生徒の数も年々増加しており、特に通級による指導を受けている児童生徒数も多く増えている。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、休校期間が長引いた。ストレスや不安を抱える児童生徒が多く、もとの学校生活へ戻れない児童生徒が増えている。授業の形態いじめや不登校の未然防止と支援を必要とする生徒の早期発見のために、児童生徒の援助ニーズを探る必要がある。

また、コロナ禍により、授業の形態が大きく変わった。特に音楽の授業内では、飛沫防止のため、歌や器楽の演奏が制限された。2020年度にはICT教育が推進され、一人一台タブレット端末が支給された。このような背景を踏まえて、本実践ではオンデマンドでの動画の学習支援を行うこととした。このような支援を通して、音楽の授業においても、一人一人の援助ニーズに合わせた工夫や対応をすることで、音楽活動を充実させたい。

## 2. 現状の課題と援助ニーズ

実習校は、中学校である。生徒の実態として、全学年の生徒が落ち着いた雰囲気音楽の授業に取り組んでおり、学習規律も整っている。支援学級在籍生徒も、まじめに音楽の授業に参加している。ただ、音楽の授業中には、生徒一人一人に合わせた個別の指導がとりにくいのが現状である。そこで、音楽の授業における支援学級在籍生徒の援助ニーズの把握と具体的な支援内容を検討する。このことは、支援学級在籍生徒だけでなく、通常学級在籍生徒の援助ニーズに合った対応のヒントにもなるのではないかと考えた。

教員のインタビュー調査から、生徒の現状として、新型コロナウイルス感染症拡大によりストレスを感じていたり、不安になっていたりする生徒が多くおり、保護者の意向から登校せずに家に待機している生徒もいることが分かった。実習校でのニーズとしては、学校の中で密になってはいけないので、音楽の授業は楽器や歌もできず、どうすればよいのか困っており、難しいということも分かった。

今年度はコロナ禍の影響もあり、音楽科の通常授業が難しく、支援学級でのマンツーマンの対面支援も制限された。そこで、生徒が音楽の動画を視聴することで学習する支援をメインにすることにした。動画であれば、家でも学校でも見ることができ、何度も繰り返して見ることができ、視覚的に分かりやすく目からも耳からも学習することができる。また、動画を止めたり戻したりできること、自分のペースで学習できること、何度も繰り返し行えることで、

「できた！」と達成感を得ることができるのではないかと考えた。

実習校のニーズに合わせて動画を作成することで、生徒が一人で取り組むことができ、楽しみながら学習することができるという現実に有用なコンテンツになるのではないかと考えた。

### 3. 学習支援としての動画

動画については、支援学級担当教員からアドバイスを受けて、オリジナルに作成したものである。内容としては、筆者自身がモデルとなり、生徒が簡単に取り組めるようなトレーニングとなっている。今回、「10秒呼吸法」と「音楽に合わせて体を動かそう」の動画を計画したのは、コロナ禍により自粛期間が長く、生徒の心身にストレスが溜まっているのではないかと考えたからである。誰もが楽しめるものであり、「やってみよう！」と思えるような動画にしようと計画した。2回の動画実施により分かったことは、生徒によって反応が全く異なるということである。アンケート結果も、「楽しかった」という生徒もいれば、「あまり楽しくなかった」という生徒もあり、さまざまであった。しかし、特に「10秒呼吸法」は、「体がラクになった」などのリラックス効果があった。

### 4. まとめと考察

本実践の動画での学習支援づくりにより、動画作成における6つのポイントに整理することができた。動画作成の過程では、生徒の実態を把握することや生徒目線で考えることの大切さが分かった。

#### 動画作成のポイント

- 
- ① 動画の流れを提示する

---

  - ② 説明のお手本と生徒にさせたい動作をはっきりとわかる

---

  - ③ スモールステップで支援する

---

  - ④ ゆっくりと丁寧に動作を繰り返す

---

  - ⑤ 声かけの工夫をする(例「できたかな?」「同じようにやってみよう!」)

---

  - ⑥ まとめの呼びかけをする(振り返り)

以上、本稿では、動画での学習支援づくりについて述べてきたが、動画を一から作成するには、大変な時間と労力がかかった。このことから、現場の先生が一から動画を作って実践するには、大変ハードルが高いと推察される。しかし、動画作成のポイントを押さえながら、動画支援教材を活用すれば、動画の中でのお手本を何度でも見直すことができ、個別学習ができるようになる。また、動画の中でイラストや図を使って、どのようにリコーダーを吹けばいいのかなどを分かりやすく一人で学ぶこともできる可能性が高くなるだろう。

今後、教員として教育現場で指導する際に、今回は実施できなかったが、計画の1つであった歌やリコーダーについて、レベルを測るチェックリストを作成し、生徒一人ひとりのレベルに合わせた学習支援を行っていきたい。ICTを活用し、生徒一人ひとりのレベルに合わせた個別学習の1つとして動画での学習支援が広がるよう取り組んでいきたいとも考えている。